

## 平成 29 年第 2 回大崎市議会定例会一般質問発言通告書

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
1	6	中鉢和三郎	<p>1 少子高齢化が進む中の大崎市としての社会保障制度のあり方について</p> <p>(1) 本年度の当初予算における民生費の一般会計総額に占める割合は 30%となった。国同様に、社会保障費の高騰に歯止めがかからない状況である。その最大の原因は、少子高齢化の進展だと考える。しかし、少子高齢化に対する即効性のある特効薬は見当たらないのが実態である。このまま手をこまねいていけば、社会保障関連費用の増大により、財政の硬直化、ひいては財政破綻の危険性も現実のものとなりかねない。</p> <p>痛みを伴う思い切った給付の適正化や、削減につながる施策も断行しながら、将来の本市の活力となる人材育成につながる若い世代の定住促進、子ども・子育て環境の充実を図るなど、メリハリの効いた政策バラエティーを練り、他自治体に先んじて今後の社会保障制度に対する本市独自のポリシーを定めるべきと考えるが、所見を伺う</p> <p>2 幼児教育、保育の無償化と、受け皿となる施設整備について</p> <p>(1) 5月29日、政府は、経済財政運営の指針（骨太の方針）を明らかにした。その中に、幼児教育と保育の早期無償化が明記された。</p> <p>少子化が急速に進展している本市においては、時宜を得た施策であり、子育ての大きな追い風となるものと期待する。</p> <p>そこで、国による制度化に先駆け、本市独自に無償化に取り組むことはできないか。周辺他自治体との差別化において、大きなアドバンテージとなるものとする。市長の所見を伺う。</p> <p>一方、無償化により、制度の利用児増加が想定されるが、公立保育所の統廃合及び民営化や、私立保育園、私立幼稚園の認定こども園への移行が課題と考える。この課題への対処の方策を伺う</p> <p>3 健康ポイント制度について</p> <p>(1) 今年1月28日のNHKニュースおはよう日本で、「運動をすれば牛肉や商品券がもらえる？驚くべき健康ポイント制度とは」と題して紹介された健康ポイント制度。健康ポイント制度は、運動や検診などを行った人がポイントを受け取って商品券などに交換する制度で、運動などの奨励で住民の健康を増進し、医療費も削減しようというものである。</p> <p>国は、2014年から6つの自治体を対象にこの制度の効果を検証した。結果、一定の効果が確認されたとのことである。</p> <p>調査は、1万2,000人余りが参加したもので、統計</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
2	14	只野直悦	<p>的に有意なものと考えられる。この結果から推定すると、全体で約5億円の医療費抑制効果が得られ、制度にかかる事業費を3億円余り上回るというもので、効果が数字で確かめられた。</p> <p>本市においても、全市民を対象に健康ポイント制度を導入すべきと考えるが、所見を伺う</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 安全・安心なまちづくりについて <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 防災意識向上の啓発について</li> <li>(2) 消防団後援会体制の現状と拡大について</li> <li>(3) 少年消防クラブの育成について</li> </ol> </li> <li>2 交流人口拡大のまちづくりについて <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育旅行、グリーンツーリズム推進事業の本気度について</li> <li>(2) 受け入れ態勢の整備は</li> <li>(3) 交流人口を拡充するためのプロモーションについて</li> </ol> </li> <li>3 食育の推進について <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「食」と「農」が連携した食育の推進について <ol style="list-style-type: none"> <li>ア 中学生の農業体験学習の取り組みについて</li> </ol> </li> <li>(2) 食品ロスの減少策について <ol style="list-style-type: none"> <li>ア 学校給食の食べ残し量の実態と課題について</li> <li>イ 30・10運動の推進について</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>4 国内・国際都市交流の推進について <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 都市交流事業の新たな取り組みは</li> <li>(2) 大崎市都市交流事業補助金基準見直しの進捗について</li> </ol> </li> </ol>
3	29	小沢和悦	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 人材確保、若者の地元定着を推進する条件つき奨学金給付制度や奨学金返還支援制度の創設について <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) この制度が大崎市がつくることの重要性についての認識の有無</li> <li>(2) 民間事業者等との協働事業による実施に向けた取り組みについて</li> <li>(3) 今年度内の具体化に向けた取り組みについて</li> </ol> </li> <li>2 農山村振興対策について <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 農林業諸団体と連携した農山村の振興策について</li> <li>(2) 選果場、農産加工及び販売施設、「道の駅」構想について</li> <li>(3) 千手寺の防災拠点に整備する「(仮称)道の駅」について</li> </ol> </li> <li>3 生活困窮者自立支援について <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 市税等の未納状況(実人数、世帯数)と、その原因把握及びその後の対応について</li> <li>(2) 生活困窮者に寄り添い、自立を支援することは、大崎市関係全職場の認識になるようにできないものか</li> </ol> </li> <li>4 吉田川流域住民を大水害から守る対策について <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 市長は、鹿島台地域に大水害を及ぼす危険のある吉田川の上流から下流までの現地調査を実施し、大水害の原因</li> </ol> </li> </ol>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
4	19	氏家善男	<p>となる可能性のある問題解決に全力を挙げてはいかがか</p> <p>5 市有財産の管理及び貸付について</p> <p>(1) 貸借契約書で借受人に「善良な管理者の注意をもって維持保存」義務を課している。この契約条項違反の疑いがあれば、その疑いが晴れてから契約更新するのが当然ではないか</p>
			<p>1 防災行政無線について</p> <p>(1) 運用が始まった防災行政無線の難聴世帯の割合と難聴地域を識別しているか、伺う</p> <p>(2) 中継局の増設または戸別受信機の充実等難聴地域への対応について</p> <p>(3) 使用マニュアルについて</p> <p>2 保育所の民営化計画について</p> <p>(1) 民営化の指針について伺う</p> <p>(2) 計画推進と住民合意について</p> <p>(3) 認定こども園への支援について</p> <p>3 有害鳥獣駆除対策について</p> <p>(1) 被害実態の把握</p> <p>(2) 電気柵の設置状況</p> <p>(3) 狩猟友会の会員の状況</p> <p>(4) 狩猟免許取得者の育成</p> <p>(5) 職員による駆除隊を設ける考えについて</p>
5	22	豊嶋正人	<p>1 公共施設等総合管理計画の取り組みについて</p> <p>(1) 具体的な進行管理、統廃合等の実施計画策定の考えは</p> <p>(2) 市長の直轄組織、全庁的な取り組み体制の構築を</p> <p>(3) 更新、統廃合等の財源確保策、人口減少、少子高齢化を踏まえた的確な将来推計（シミュレーション）策定の考えを伺う</p> <p>(4) 行政サービス水準のあり方（合併の検証、民間手法活用への検討、住民負担、住民参加による自主管理、廃止後の対応、広域利用等々）を十分に検討すべき</p> <p>(5) 住民合意形成には、十分な情報の公開、提供、共有を大事にすべき</p> <p>2 水道事業の民営化について</p> <p>(1) 政府は、3月7日「水道法の一部を改正する法律案」を閣議決定し、第193回通常国会に提出。改正案のポイントは5点挙げられているが、この内容をどのように受け止めているか</p> <p>(2) 県は、上下水事業一体によるコンセッションを活用した官民連携を内容としたみやぎ型管理運営方式を勧めようとしているが、市への説明はあったのか。市としての考えは</p> <p>(3) 水道事業は、憲法25条の「生存権」を根拠とする事業であり、企業の利潤を追求するものではないと思うが、市の考えは</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
			<p>3 地方自治法、地方公務員法の一部改正を踏まえた、臨時・非常勤等職員の処遇改善について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 本市における臨時・非常勤等職員の任用根拠と現在までの雇用者数の推移はどうなっているか</li> <li>(2) 今回の改正をどう受け止めているか</li> <li>(3) 2020年4月の法施行を見据え、「会計年度任用職員」への移行について、本市としての考えは</li> <li>(4) 現在の職を改めて検証し、恒常的な職に対しては「任期の定めのない非常勤職員」を配置すべきではないか。その際、公共サービスを低下させない観点から、現に任用されている臨時・非常勤職員を「任期の定めのない常勤職員」への転換を図ることも検討すべきではないか</li> <li>(5) 公共サービスの多様化に対応し、安定的にサービスを提供するためには、臨時・非常勤職員の存在は不可欠であり、移行にあたっては、経験やスキルのある人材を確保するためにも、現在働いている職員を「会計年度任用職員」として位置づけることが必要ではないか</li> <li>(6) 「会計年度任用職員」を任用する場合は、人材活用を促すため積極的にフルタイムでの任用を進める必要があるのでは</li> </ol>
6	8	鎌内つぎ子	<p>1 空き家活用による地域の活動拠点づくりについて</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 高齢者デイサービスや地域住民のたまり場等について</li> </ol> <p>2 介護保険について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 介護サービス提供体制について</li> </ol> <p>3 保育行政について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 発達障害児等、医療的ケアが必要な障害児の受け入れ態勢について</li> </ol> <p>4 大崎市民病院救命救急センター運営費県補助金について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 県との協議について</li> <li>(2) 今後の見通しについて</li> </ol>
7	4	氷室勝好	<p>1 人口の将来推計と市政運営について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人口集中が加速する中心地域と、減少に歯止めがかからない周辺地域の実態と、その対応策について伺う</li> <li>(2) 持続可能な地域社会づくりに向けた産業の創造と雇用環境の創出等の取り組みについて伺う</li> <li>(3) 地域のニーズに合った市民生活のさらなる基盤づくりとしての市民活動拠点施設の機能や運営の整備への取り組みについて伺う</li> <li>(4) 地域政策の展開と、行政組織の再構築の方針について伺う</li> </ol> <p>2 教育環境の充実について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 全国学力テストの本市の小中学校の平均正答率の実態について伺う</li> <li>(2) 学力調査結果等を生かした学習指導及び効果的な学習支援の取り組みについて伺う</li> </ol>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
8	5	佐藤弘樹	<p>(3) 望ましい食生活を目指す食育の充実を図るため、小中学校給食事業の推進について伺う</p> <p>(4) 社会教育事業の一環として成人式が実施されているが、出席率の低下が懸念されることから、その支援への取り組みについて伺う</p> <p>1 市の花・木・鳥等普及事業の申請状況と市内活性化策について</p> <p>2 学校図書の実と活用策について</p> <p>3 発達障害児童への支援体制について</p> <p>4 観光施策の重点と方向性への考えについて</p> <p>5 学校支援コーディネーターの役割と現況について</p> <p>6 古川七日町西地区再開発事業の進捗について</p> <p>7 新大崎市民病院改革プランの策定状況について</p>
9	27	大山 巖	<p>1 地方創生策「人材支援制度」について</p> <p>(1) 現在、政府は地方の経済の活性化を図ろうとしている。しかし、現状を見ると、その施策は地域振興のための商品券事業など、どこにも似たり寄ったりの施策となっている。これらにも即効的な一定の効果はあるかもしれないが、長続きするものではないと思う。</p> <p>国の地方創生策には、人材支援制度もある。これを利用することは、派遣された方の派遣されている期間の活躍ということだけではなく、市役所の職員が市役所以外の方と一緒に仕事をすることで後々までも影響を及ぼす可能性があり、このような制度は積極的に活用すべきだと考えるがいかかがか、伺う</p> <p>2 住民の行政参加について</p> <p>(1) 我が国は民主主義の政治形態をとっているため、地方自治も直接請求などの直接参加と、市長、議員を選挙する間接参加が基礎になっている。</p> <p>住民には、我が市をいかに治めるかという住民自治の観念が薄いように思われる。行政の一部に市民の参加を求める、市民が自発的に参加するような啓蒙は考えられないか、市長の所信を伺う</p> <p>3 廃校の有効活用について</p> <p>(1) 少子高齢化の進展により、やむを得ず廃校が行われ、その後の活用状況があまり有効になされていない状況が見受けられることについて伺う。</p> <p>少子高齢化の進展により学校は必要がなくなり、高齢者のための施設の確保が必要となっており、老人福祉施設では入所待ちの住民が多数おられると伺っている。また、保育施設の充実といったことも早急に求められている。</p> <p>住民のニーズは多様であり、鋭意検討中であることと思うが、どの程度の進捗か、伺う</p> <p>4 駐車料金の徴収について</p> <p>(1) 大崎市民病院の駐車料金の徴収について</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
10	15	相澤孝弘	<p>(2) 新図書館の駐車料金の徴収について (3) 市の職員から駐車料金を徴収することについて</p> <p>5 敬老会の事業内容の見直しについて</p> <p>1 防災、減災に向けた取り組みについて (1) 防災対策事業について (2) 想定外の事態に対する危機管理と対応について (3) 9・11 豪雨災害の復旧について</p> <p>2 道路整備と河川整備について (1) JRに委託している大江川・稲葉小泉線改修工事の進捗状況について (2) 347号以北の稲葉小泉線整備の見通しについて (3) 北原工業団地周辺の道路整備が急務になっていることについて</p> <p>3 JR塚目駅周辺再整備の取り組みについて (1) 整備の必要性と事業化の進め方について</p> <p>4 中小企業・小規模企業振興に関する取り組みについて (1) 商工団体からの条例の制定を求める要望に対する市の考えについて</p>
11	1	佐藤仁一郎	<p>1 社会教育バス運行の方向性について (1) 利用状況を伺う (2) 更新または増車の方向性を伺う (3) バスにETCカードを装着する考えはないか</p> <p>2 市の花、木、鳥制定による地域振興策と今後の方向性について (1) 制定後、約半年が経過したマガン、桜の振興策の反響 (2) ひまわり栽培の推奨と支援策は (3) 転作制度の見直しに係るひまわりの丘のあり方について</p> <p>3 多面的機能支払等と地域保全活動について (1) 多面的機能支払等の29年度の取り組み状況を伺う (2) この事業の効果と、対象活動の注意すべき点について伺う (3) 地域保全活動の今後の方向性について伺う</p>
12	24	佐藤和好	<p>1 大崎市合併11年を経た新市建設計画の進捗について (1) 一体性事業とされた各事業の進捗度合いは (2) 新市建設計画での未着手事業はまだあるのか。また、着手された事業中、事業費、完成年度ベースで最も期間を要する事業は</p> <p>2 中心市街地復興まちづくり計画について (1) 古川七日町西街区再開発事業について ア 第1種市街地再開発事業とされる整備計画の内容は イ 平成27年第1回定例会にて、地方創生政策により創設された民間補助事業を最大活用し、民間主導の事業着手には可能な限り財政負担を軽減していく旨の答弁があった。現在の準備組合との連携状況は</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
13	12	関 武徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>リ 公益施設としての地域交流センター配置と伺っているが、整備内容と進捗状況、利用者駐車場整備は。隣接する醸室など他施設の役割分担、連携は</li> <li>エ 居住施設も計画されているが、現在大崎市では「おおさき市地方創生総合戦略」で移住定住促進施策を展開し、一定の効果が見えている中、本戦略は31年度までの期間予定となっている。居住施設は32年度末竣工となっており、本戦略期間終了後も民間への移住定住支援策が必要と思うが、いかがか</li> <li>(2) 庁舎建設事業について <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 千手寺地区、市役所周辺地区、緒絶川周辺地区、古川七日町地区など、まちづくり計画の内容が見えてきた中、庁舎の姿がなかなか見えてこない。まちづくりは一体的なものでなければならないが、計画される新庁舎はどのような役割を持ち、何を指すのか</li> </ul> </li> <li>3 古川市街地環状道路について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 稲葉小泉線について <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 都市計画道路稲葉小泉線は、現在事業実施中の古南1号線は本年度までの事業期間となっている。以北の同線については今般、宮城県を事業主体として実施されると伺っているが、スケジュールは</li> </ul> </li> <li>(2) 李塚新田線について <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 国道4号線以西の事業計画スケジュールはどうなっているか</li> <li>イ 国道47号線とのタッチ部分の考え方は。慢性的な渋滞が続く新田交差点の解決は同事業の最終年度である平成35年度まで放っておくのか。渋滞解決に向け、国との協議を開始すべきと考えるが、いかがか</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>4 幹線道路の信号機設置要望に対する市の県に対する要望基準について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 地区住民より、交通安全を願って数多くの信号機設置要望があると伺っているが、要望件数は。また、要望への実現不可回答説明は一律に県への責任転嫁論となっており、説明責任に不十分と言える。県に対する市の要望基準を明確に設定すべきと考えるが、いかがか</li> </ul> </li> <li>1 都市計画道路李塚新田線、稲葉小泉線整備の取り組みについて <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 基礎調査や関係地域との合意形成と建設整備へのスケジュールについて</li> <li>(2) 整備効果を高めるための、計画エリアの用途指定変更を含めた協議について</li> <li>(3) 古川インター周辺の工業系用地の需要現状と将来見通し</li> </ul> </li> <li>2 「道の駅」基本設計の進捗とまちなか再生、にぎわいづくりへの取り組みについて <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 「道の駅」整備実施計画策定は、どのように取り組まれているのか</li> </ul> </li> </ul>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
14	2	佐藤仁一	<p>(2) 市民の期待, 参加意欲をどう受け止めているのか</p> <p>(3) まちなか再生, 活性化へつなげるポイントをどう捉えているのか伺う</p> <p>3 第1期障害児福祉計画の策定について</p> <p>(1) 医療的ケアのある障害児を初めとする障害児支援要望に応える計画づくりをどう目指すのか</p> <p>(2) 障害区分によって支援のあり方が違うが, 障害全般に及ぶ計画となるのか</p> <p>(3) 計画に実行性はどうか担保されるのか</p> <p>1 古川市街地の誘客力強化と各地区市街地とのにぎわいネットワーク策を問う</p> <p>(1) 大崎市の中心市街地である古川市街地への誘客力の強化策を伺う</p> <p>(2) 市民生活及び訪問者が大崎市の一体感を感じる市街地形成のための各地区市街地とのにぎわいネットワーク策を伺う</p> <p>(3) 中心市街地に電気自動車やプラグインハイブリッド車が日常化する潮流を取り込む, 充電インフラのスマートオアシスターミナルの整備策を伺う</p> <p>2 岩出山地区小学校統合と連動する放課後児童生徒健全育成の環境整備策を問う</p> <p>(1) 地域行事や多世代な交流を通じて育む小学校教育の良さを, 広域化する統合小学校でどう育ていくのか, 市教育委員会の指導方針策を伺う</p> <p>(2) 放課後児童健全育成のための児童館整備要望と一体的な子育て支援策を伺う</p> <p>3 小学校閉校後の地域振興と若者定住, 子育て支援の充実策を問う</p> <p>(1) 閉校後の定住移動を避けるために, スピードある跡地の利活用を含めた雇用, 起業創出の地域計画策を伺う</p> <p>(2) 出生数減少から連動する保育所の今後の動向と, 地域社会に位置付けられた多分野・機関との連携策を伺う</p> <p>4 第三セクター株式会社池月道の駅の平成28年度計算書類に対する指導のあり方を問う</p> <p>(1) 大崎市は第三セクターの開設者であり筆頭株主として, 各年度の決算計算書類や事業経営報告などをどのような手順で精査して株主総会に臨んでいるのかを伺う</p> <p>(2) 大崎市は株式会社池月道の駅の平成28年度貸借対照表及び損益計算書などの決算書をどうとらえていたのか, また税務署指導後の株主への対応に問題がなかったのかを伺う</p> <p>(3) 筆頭株主として監査役を派遣し, 責任を全うしていることは評価するが, 個人の判断や思い込みだけで報告され, 事実関係が正しく反映されていないときの指導のあり方を伺う</p>



発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
15	9	木村和彦	<p>1 中心市街地の今後について</p> <p>(1) 広域消防本部建設の事業の連携について</p> <p>ア 消防本部の連携について</p> <p>1) 大崎広域行政事務組合では、消防本部の建設に向け、先の広域の臨時議会で契約の議案が可決された。旧市民病院の解体工事、子育て支援施設整備などを含む周辺整備の進捗状況について伺う</p> <p>2 国民健康保険運営の今後について</p> <p>(1) 国、県との連携</p> <p>ア 時期、今後の経過</p> <p>イ 基金の考え方</p> <p>ウ 大崎市の税の考え方</p> <p>3 財産管理のあり方、遊休土地、動産の管理と有効利用について</p> <p>(1) 統合により廃校となる跡地の利用</p> <p>(2) 鳴子総合支所など移転による跡地の利用</p> <p>(3) 遊休資産の活用方法</p> <p>4 子育て支援と教育指針</p> <p>(1) 放課後児童保育の基本</p> <p>ア 放課後児童の場所の選定</p> <p>イ 保護者（PTA）と地域住民の意見の相違をどう扱うか</p> <p>ウ 学校敷地内での放課後児童施設の建設</p>
16	18	後藤錦信	<p>1 市の木「桜」の普及啓発への取り組みについて</p> <p>(1) 市内における植生の現状について</p> <p>(2) 古木の管理や更新への取り組みについて</p> <p>(3) 職員研修（新規採用者）に桜の記念植樹を</p> <p>2 給水区域外の地域に対する安全・安心な水の供給について</p> <p>(1) 鬼首地域における給水区域外の地域に対する水道の整備について</p> <p>3 有害鳥獣被害対策への取り組みについて</p> <p>(1) ソーラー電気柵の導入支援の現状について</p> <p>(2) 被害対策実施隊の充実と支援について</p> <p>(3) 集落ぐるみでの取り組み推進について</p> <p>4 病院事業について</p> <p>(1) 入院中における食事提供の現状について</p> <p>(2) 地産地消への取り組みについて</p>
17	21	木内知子	<p>1 吉田川水害防止のための河川整備計画推進について</p> <p>(1) 本年1月11日、平成27年9月11日の関東・東北豪雨による大和町の甚大な被害を受け、吉田川上流を管理する県は築堤と河道堀削で、流下能力を現在の5倍に引き上げる方針を示した。</p> <p>このことにより、下流域の大郷町や本市鹿島台地域への洪水の危険度の増幅が危惧される。国管理の吉田川下流の河川整備計画も示されているが、果たして流域住</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
18	7	相澤久義	<p>民の不安が払拭されるものになっているのか甚だ疑問と考えざるを得ない。以下、伺う</p> <p>ア 9・11での鹿島台地域の決壊寸前であった状況等を踏まえ、恒常的に水害の危険を抱えている志田各地、内ノ浦、鎌巻地区を擁する鹿島台地域についての市長の認識について</p> <p>イ 下流の国道45号線沿いに整備されている「ひとやすみパーキング」の河道へのせり出し部分の撤去の必要性について</p> <p>ウ 上流部の嘉太神ダムは農業用ダムとして建設されたが、水量調節ができるダムに整備することについて</p> <p>エ 国管理の河川整備事業を促進させることについて</p> <p>2 文化財の保管と展示について</p> <p>(1) 5月23日より6月25日まで、松山ふるさと歴史館において国重要文化財指定記念企画展として、田尻地域の小松寺にあった「木造千手観音坐像及び両脇侍立像」の展示が行われている。 企画展示スペースの関係で、本来坐像とセットになっている台座と光背は、収蔵庫保管となっている。展示終了後の保管等はいかに考えているのか</p> <p>(2) 収蔵庫の狭隘解消策について</p> <p>(3) 市立博物館の建設構想について</p> <p>3 遺跡発掘と地域住民への周知について</p> <p>(1) 5月16日から約3週間にわたり、松山長尾地区の長尾城跡で行われた発掘調査で、横穴式古墳1基と整地層が発見された。開発による調査であったが、地域の歴史に新たな歴史が加わったことになる。発見段階で地域住民への周知について配慮すべきではなかったのか</p> <p>1 重症心身障害児者（医療ケア）の通所施設整備、支援の考え方について</p> <p>(1) 大崎圏域では、医療的ケアに対応している生活介護事業所「バステルあやめ」等があるが、重症心身障害児者（医療ケア）が利用できる放課後デイサービス、ショートステイ事業所ではない。他圏域で大崎市の重症心身障害児者（医療ケア）が利用可能な放課後デイサービス事業所に「デイサービスふわり」（七ツ森希望の家）があり、家族の送迎があれば利用可能だが、大崎市の施設整備の考えは。また、市内施設への職員派遣、その他支援について</p> <p>2 保育所、幼保一元化施設の民営化について</p> <p>(1) 保育所民営化の取り組み、計画は</p> <p>(2) 三本木ひまわり園の民営化の考え方は</p> <p>3 空き家対策と高齢者対策について</p> <p>(1) 過日、河北新報朝刊に空き家対策本部設置の記事があったが、本部の設置目的、ねらいは</p> <p>(2) 空き家予備軍と言われている75歳以上の老人のみ世帯5,600戸超の対策について</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
19	17	山田和明	<p>(3) 高齢者住宅建設について</p> <p>4 今後の職員新規採用の考え方について</p> <p>(1) 障害者採用の考え方</p> <p>(2) 高校、大学でスポーツ等で優秀な人材が、現在は普通の仕事をしながら保・幼・小・中学生を指導している。近い将来、オリンピック選手に育成できるよう指導を強化することについて伺う。また、大崎市役所単独で国体等の出場を実現できる職員採用について伺う</p> <p>5 市道堺堀線改良工事について</p> <p>(1) 改良工事が進む市道境堀線への電柱の地中化について</p> <p>(2) 市道境堀線完成後の周辺、東浦団の住宅団地整備、土婦、寺橋団の工業団地整備について</p> <p>1 地域包括ケアシステムの構築について</p> <p>(1) 在宅の要介護高齢者が、医療、介護予防、生活支援、住まいの5つのサービスを一体的に利用できるような取り組みについて</p> <p>(2) 地域包括支援センターの強化と充実について</p> <p>(3) 認知症サポーターの活動支援について</p> <p>2 吉田川流域の水害対策について</p> <p>(1) 吉田川上流部に遊水地が整備されるが、大崎市としての後押しについて</p> <p>(2) 吉田川流域の水害対策として、南川ダムの大雨前の事前放流は有効で欠かせない対策と考えるが、いかがか。また、東松島のひとやすみパーキングが流れを阻害していることに対する大崎市としての働きかけについてはいかがか</p> <p>(3) 吉田川の河道掘削事業は前倒し事業として取り組みができるよう市が働きかけることについて</p> <p>3 デジタル防災行政無線の継続事業について</p> <p>(1) 保育園、幼稚園、小中学校への戸別受信機の設置について</p> <p>(2) 会社、事業所などへの戸別受信機の設置について</p> <p>4 防犯灯の設置のあり方について</p> <p>(1) 各行政区への防犯灯の電気料金の補助基準見直しについて</p> <p>(2) 各地域からの手挙げ方式の見直しについて</p>
20	11	横山悦子	<p>1 障害者差別解消法の施行に伴う行政の役割について</p> <p>(1) 施行に伴い、全職員（病院事業職員を除き、非常勤職員、臨時職員も含む）に対し障害者平等研修を行うべきではないか</p> <p>(2) 代読、代筆のため情報支援員の研修の実施について</p> <p>(3) 相談体制の整備と実施について</p> <p>2 医療的ケア児の障害児の受け入れ対策について</p> <p>(1) 7,294名の署名、要望書をどのように受け止めたのか</p> <p>(2) 第1期障害児福祉計画を策定し、医療的ケアの支援方</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
			<p>針の具体的内容とは</p> <p>(3) 児童発達支援施設ほなみ園などでの対応方針や計画日程について</p> <p>3 ミサイル発射情報の誤報について</p> <p>(1) なぜ今回、防災行政無線試験をしようとしたのか。国からの通達があったのか</p> <p>(2) 誤報の原因と反省、今後の対策について</p> <p>(3) 伊藤市長はいつ報告を受け、どのような指示を出したのか</p> <p>(4) 誤報について国・県からの指導はあったのか</p> <p>(5) 保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、事業所等、人がたくさん集まっているところに戸別受信機の設置をするべきと思うが、考えは</p> <p>(6) 難聴地域対策について、内容が聞き取りにくいとの声もあるが、対策は</p> <p>4 いじめ問題の取り組み状況について</p> <p>(1) 本市のいじめの実態把握はどのようにしているのか</p> <p>(2) いじめ対処方針と防止対策について</p> <p>(3) 教育委員会の役割について</p> <p>(4) 子ども達の心の変化をどんな方法で酌み取っているのか</p> <p>(5) 家庭が大きな役割を担うことから、保護者に向け、子どもの変化に敏感になるための啓発活動が必要と考えるが</p> <p>(6) 子どもに対する先生方の体罰の実態はあるのか</p>
21	13	遊佐辰雄	<p>1 放射性廃棄物の処理について</p> <p>(1) 焼却処理の方針を撤回すべきでないか</p> <p>(2) 住民合意が得られなくても焼却処分にこだわるのか</p> <p>2 スキー競技の振興策について</p> <p>(1) 上野々クロスカントリーコースの整備に欠かせない圧雪車の配備について</p> <p>(2) オニコウベスキー場アルペン競技のコース延長のその後の進展について</p>
22	3	八木吉夫	<p>1 仮称熱回収施設等周辺地域ビジョン、エコタウン構想について</p> <p>(1) 仮称熱回収施設等周辺地域ビジョン、エコタウン構想について、地域住民、大崎広域、西地区熱回収施設整備等・周辺環境整備推進協議会の3者での協議の進捗を伺う。 あわせて、将来ビジョンを伺う</p> <p>2 古川駅前地区の開発について</p> <p>(1) 市役所周辺、七日町西地区の開発が進む中、古川駅の玄関口である駅前地区についてどのような開発ビジョンを持っているのか、構想を伺う</p> <p>3 防災対策拠点地区における仮称道の駅のあり方について</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項	
			(1) 消防本部，消防署の建設が進もうとしているが，仮称道の駅の構想をどのように捉えているか，伺う	